

平成16年度 全国高等学校総合体育大会
(第72回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成 16 年 8 月 17 日
会場: 島根県江津市民プール

ゲーム 1

帽子の色 白 埼玉栄高校 2	$\left. \begin{array}{l} 0 - 2 \\ 1 - 3 \\ 1 - 0 \\ 0 - 1 \\ \text{EX.} \\ - \\ - \\ \text{P.T.} \\ - \end{array} \right\}$	青 帽子の色 秀明英光高校 6	審判1: 若林和人 審判2: 槇橋邦広
天候: 晴れ			

戦評

「君の輝く一瞬が今伝説となる」のスローガンのもと、平成16年度のインターハイが開始された。初戦は今年度の国体開催県である埼玉県同士の戦い。

埼玉栄は、過去2度の優勝経験があり現在16年連続の出場。様々な運動部が全国レベルで活躍しているスポーツが盛んな学校である。秀明英光は優勝経験1度、今年度の日本選手権で4位に入賞しており、優勝候補の一つにあげられている。両校ともオフェンスを得意とするチームであり、好ゲームが期待される。昨年秋より両校の対戦は今回で5度目、今までは全て秀明英光が勝っているが勝利の女神はどちらに微笑むのだろうか。

1P秀明がセンターボールを取って試合開始、両校とも一進一退の攻防ながら秀明が押し気味に試合を進めている。3'58"若松が左サイドからシュートを決めて秀明が先取点。栄も志水や岩野のフローターを中心に攻撃、退水を取るが得点できない。秀明は栄のゴール前サイドにでたボールをGKと取り合いになり、そのボールがノーマークの山口へ出て2点目。ピリオドの途中から秀明の激しい攻撃で栄は防戦一方、栄は攻め手が見つからない状況。

2Pセンターボールを取った秀明がセット攻撃でボール展開。6'31"乙女が右サイドからシュートを決めて3点目。栄も再三カウンターを仕掛けるがチャンスが生まれない。4'22"秀明の染谷の退水を栄の岩野が取り、秀明ゴールを責め立てるが得点できない。1'35"栄の岩野がカウンターからのループシュートで初得点、栄の反撃が始まると思われたが、秀明は1'21"に山口、41"に浜田が連続得点して突き放す。

3P両校とも決め手を欠いて得点できない。3'11"秀明豊田の退水を2'59"栄の醍醐が決めて2点目。栄は必死に守って、永沢・岩野・醍醐らがカウンターを仕掛けている。01"秀明の浜田が退水したところで終了。

4P栄がセンターボールを取って、タイムアウト。退水ゾーンで攻撃するが得点できない。栄は永沢・岩野を中心に気力を振り絞って攻撃するが得点できない。2'04"秀明の染谷がボールをスチールして、自分で運んでシュート。6点目がはいる。栄は必死に守って、あきらめずに攻撃していたが、得点することはできなかった。

栄は全員で秀明の攻撃を守り、永沢・岩野・醍醐を中心にカウンターを仕掛けていたが、最後の決め手を欠いていた。秀明は厳しいディフェンスで栄の攻撃を防ぎ2回戦に進出した。

記録者 光田康志

平成16年度 全国高等学校総合体育大会
(第72回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成 16 年 8 月 17 日

会場：島根県：江津市民プール

ゲーム

2

帽子の色	白	$\left. \begin{array}{ccc} 2 & - & 1 \\ 1 & - & 1 \\ 2 & - & 1 \\ 1 & - & 2 \\ & \text{EX.} & \\ & - & \\ & - & \\ & \text{P.T.} & \\ & - & \end{array} \right\}$	青	帽子の色
	鹿児島南高校		関西高校	
	6		5	
天候：	晴れ		審判1：折笠 敬一	
			審判2：榎本 隆	

戦評

九州地区代表、鹿児島南高校と中国地区代表、関西高校との伝統校同士の戦い。鹿児島南は混戦の九州大会を優勝で飾り、10年連続本大会への出場権を獲得した。接戦を制してきた、集中力と粘り強さを生かし、昨年逃した優勝を今年こそ狙いたいところ。一方、関西高校は来年の岡山国体を控え、強化が図られている。今大会の目標である上位入賞に向け、校訓である「敢為の精神」を貫き試合に挑みたいところ。両校ともカウンター攻撃を武器にしており、エネルギッシュな試合展開が期待される。

1P、鹿児島のセンターボールに始まる。予想以上のカウンター、アーリーオフenseの攻防が前半続く。3'45"先取点は鹿児島4番、サウスポー大木の右45度からの目の覚めるようなシュート。先取点の欲しい関西も2'36"のパワープレー時、6番松本の放ったシュートがブロックされたところを落ちて2番、沓脱が押し込み同点。鹿児島も48"ターンオーバーからカウンターで4番大木が2点目をゲット。激しい攻防の第1Pが終了。

2P、やや選手達に疲れが出たか、両チームともセンター(鹿児南:10番堂下、関西:6番松本)にボールが集まりだす。しかしながら、ゴール前、センターバックが果敢に守る。3'54"関西3-2のカウンターを3番佐伯がゴール。すかさず残り1'18"今度は鹿児島が力を振り絞った3-2のカウンター、2番宇田が右サイドからのパスを確実にゴール。このピリオド1-1で終了。

3P、3-2で鹿児島リードで突入。関西が退水のチャンスを逃した後、鹿児島は2'56"、確実に退水を2番宇田が得点につなげ2点差をつける。さらに34"鹿児島、堂下のゴール前からのミドルが決まる。このまま3Pが終了かと思われた残り21"、関西に退水のチャンス、今回は確実に5番松井が左サイドから同サイドをえぐるシュートでゴールを決め、4Pにつなげた。

4P、関西は2点、ピハインド。どうしても先手でいきたいところ。6'5"関西に退水のチャンス。4-2のセットから中の2番、沓脱をつかい見事ゴール、1点差に詰め寄る。何としても突き放したい鹿児島、4'9"退水のチャンス、ベンチは1回目のタイムアウト、勝負にでる。無情にもミドルは決まらず、ムードは俄然、関西。2'43"ついに3-3のアーリーオフenseから5番松井が得点。5-5の同点。そして、勝負は38"、鹿児南4番、大木が渾身の力で回し込み、右サイドにシュート。6-5と試合を決めた。一進一退のすばらしい試合であった。

敗退した、関西高校には、来年是非リベンジしてほしい。勝ち上がった鹿児島南高校には2回戦に向け、俄然弾みがついたように思われる。アテネに負けない感動的な試合であった。

記録者

木倉 敏彦

平成16年度 全国高等学校総合体育大会
(第72回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成 16 年 8 月 17 日
会場: 島根県:江津市民プール

ゲーム

3

帽子の色

白

高松南高校

5

天候: 晴れ

2	-	4
1	-	4
0	-	5
2	-	5
	EX.	
	-	
	-	
	P.T.	
	-	

青

帽子の色

富山北部高校

18

審判1: 牧田和彦

審判2: 当麻成人

戦評

四国ブロック代表で17回目の出場となる高松南。高校から水球を始めた選手が多く、泳ぐことから練習してインターハイに出場してきている。技術よりもチームワークで頑張るという。富山北部は7年連続7回目の出場。ジュニアからの選手が多く春のJ0で準優勝している。スロボタンコーチ(セルビア・モンテネグロ)の指導で自力をつけてきており、上位入賞をねらっている。

1P富山からの攻撃で試合開始。6'36"左サイドでノーマークになった富山の武田が得点。6'24"大井が退水になり、6'18"高南の幾田が退水ゾーンで得点。これで1対1。その後、富山がカウンターを中心に攻めるが、高南のGK矢野の好セーブに阻まれる。富山は、横井・武田と連続して得点、高南も全員で必死のディフェンスをしている。27"池上が退水しているときに、高南の鎌倉が得点をあげ、4対2で富山2点リードでピリオドを終了する。

2P、6'35"大井が相手ディフェンスの下がっているところからシュート、5点目となる。攻防が続いているが、高南はGK矢野を中心に全員で下がってディフェンス、それに対して富山はシュートミスが多く見られる。富山は大井・武田、高南は木村の得点があり、8対3で富山リード。

3P、富山は怒濤の攻撃で高南を粉砕していく。池上・大井・横井らが5得点をあげる。これに対して高南は、ボールのキープ力が弱く、ボールの展開ができないので攻撃にならない。ミスから自滅していくパターンが多い。

4P、富山の攻撃に対して防戦一方の高南。何とか一矢を報いようと攻めていくが、ボールがうまくつながらずミスが出てしまい、逆に富山に得点を許してしまう展開。富山の5得点に対して、高南は3'10"に鎌倉、49"に乃村が得点。最後まであきらめずに攻撃を繰り返したが、富山の守りに阻まれ試合終了。

高南は、GK矢野を中心に全員でよく守り、最後まであきらめずに攻めていた。特に矢野は好プレーを連発して、富山の得点シーンを防いでいた。富山はプレーに粗さが見られたが、ジュニアからの経験を生かして上位進出をねらって欲しい。

記録者

光田康志

平成16年度 全国高等学校総合体育大会
(第72回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成 16 年 8 月 17 日
会場: 島根県:江津市民プール

ゲーム 4

帽子の色 白 鳥羽高校 15 天候: 曇り	$\left. \begin{array}{l} 3 - 0 \\ 5 - 1 \\ 5 - 0 \\ 2 - 0 \\ \text{EX.} \\ - \\ - \\ \text{P.T.} \\ - \end{array} \right\}$	帽子の色 青 金沢市立工業高校 1 審判1: 井上 嘉隆 審判2: 南部 健	
戦 評			

近畿地区代表、過去に3回の優勝経験(H7:鳥取、H10:香川、H14:茨城)を有する鳥羽高校と、北信越代表で23年連続23回目の出場を果たし、やはりH3(静岡)に優勝経験を有する金沢市立工業高校とのカード。両チームとも、「ディフェンスからのカウンター、アーリーオフenseスタイル」を重視している。ゲームのポイントは「攻守の切りかえの速さ」になりそうである。スピーディーな試合展開を制するのはどちらのチームか？

1P、鳥羽ボールでスタート。6'32"早くもゴール前で退水誘発、即リターンで4番芝山がクイックゴール。金工は鳥羽のカウンター攻撃を警戒し、キャプテン村山、西谷、横山、東の3、4人でコンビをとり、シュートチャンスメイクする。しかしながら、鳥羽の執拗なDFにゴールを割ることは出来ない。反対に、鳥羽は中盤のプレスDFからボールをスティールし、カウンター・アーリーオフenseにて、筈井、千田が得点。3 - 0、鳥羽リードで終了。

2P、チームのムードアップのためにも、まず1点が欲しい金工。しかしながら、鳥羽のDFは厳しく、活路が見出せない。鳥羽はターンオーバーからのカウンター、Aゾーンを基点としたアーリーオフense、さらにはセンターでの退水誘発と多彩な攻撃で加点をし、気がつけばこのピリオド5点。金工も1'6"に5番、東がゴール前にて相手GKを出し抜くループシュートで初ゴール。何とか立て直し、ムードを盛り上げて3Pにつなげて欲しい。

3P、金工は7番、炭田を攻撃に加え得点を狙う。鳥羽の精度の高いパス、シュートも少し乱れ始め、流れは金工に傾くかと思われたが、プレスの厳しい体勢からの金工のシュートはゴールすることはなかった。結局、このピリオドも残り0"、格谷のシュートが決まり、鳥羽の5得点で終了。

4P、金工選手には気を取り直し、頑張る欲しい。気持ちが伝わったのか、村山、東が中心に再三シュートを狙うが、ゴールが遠い。鳥羽はメンバーを入れ替えながらも、スタイルは徹底しており、DFは安定していた。攻撃では4'6"、筈井の1対1のカットインからの力強いシュート、51"右センターリングからのペナルティー誘発・芝山PSの得点。ラスト数秒、金工3 - 2のカウンターからのシュートもゴールには届かず。ゲームセット。

鳥羽は全員OF、全員DFがすばらしくかみ合った試合であったと思う。さらに細かい修正を加え、次のゲームでも多彩な、スピードのあるOF、DFで応援者達を感動させて欲しい。また、残念ながら敗退した金工選手達には、もう一度OF、DF面で工夫改良を加え、次の埼玉国体での復活を目指して頑張れ、期待してます。

記録者 木倉 敏彦

平成16年度 全国高等学校総合体育大会
(第72回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成 16 年 8 月 17 日
会場: 島根県江津市民プール

ゲーム

5

帽子の色	白	{ 1 - 2 0 - 2 2 - 3 4 - 2 EX. - - P.T. - }	青	帽子の色
	大垣東高校			那覇商業高校
	7			9
天候:	曇り			審判1: 大川和二郎
				審判2: 楨橋邦広

戦評

大垣東が東海ブロック1位で4年ぶり3回目の出場。昨冬のスペイン遠征から強化を続けており、その成果がどう出てくるのか。那覇商業は初出場。沖縄の水球を見ている観客すべての人が、ワクワク(興奮)するような「わくわく水球」を全国にアピールしたいと意気込んでいる。

1P大垣の攻撃から試合開始。6'21"那覇の伊禮が右サイドからのバックシュートで先制する。その後両校とも決め手を欠いたまま、一進一退の攻防が続く。3'52"大垣のGK古市が退水、3'46"那覇の仲村が得点する。2'03"大垣の小林がゴール前からのシュートで得点。那覇1点リードでピリオドが終了する。

2P、長い攻防が続く、その均衡を破ったのが5'26"那覇の伊禮の得点。大垣は最後の一步が決めきれない状況。そのうち大垣にミスが出て3'01"那覇の與那原が得点、点差を広げる。那覇は大垣のディフェンスに苦しみながらも、スタンドの大声援を受けて試合の流れを引き寄せていく。終了間際には那覇の2名退水したが、大垣は得点をあげることができなかった。

3P、大垣は大橋・小林が那覇の山里盛にマークされて、ゴール前のポジションがとれない状況が続く。那覇も中盤でクロスを掛けながら攻撃しているが、両校とも決め手に欠けている。大垣は相手マークの隙をついて、3'32"大橋が得点。大垣の流れになるかと思われたが、那覇が2'55"に伊禮、1'41"に與那原が得点する。1'06"那覇の山里盛の退水中に大垣の澤居が得点。那覇も3'7"伊禮が相手ディフェンスがキーパーに返そうとしたボールをカットして得点する。3Pを終了して7対3、那覇が4点リードしている。ミスをいかに少なくしていくのかが勝敗の鍵になると思われる。

4P開始早々から大垣の激しい攻撃が始まる。6'24"、5'45"と立て続けに大橋が得点して必死に追い上げる。しかし4'59"那覇の伊禮が大垣のカウンターのミスから得点。大垣は流れを引き寄せようと必死に攻撃、那覇も伊禮を中心に攻撃して互角の戦い。3'02"に大垣の大橋がゴール前からシュート、2'15"に大垣の澤居がカウンターでシュートを決め1点差。試合の流れは完全に大垣ペースと見られたが、1'41"大垣の小川が退水、1'38"那覇の仲村が得点を入れ2点差。大垣の必死の追撃も及ばず、那覇が勝利した。

大垣の4Pの攻撃は見事で、もう少し早く始まっていたらと悔やまれる。那覇はスタンドの大声援をバックに堂々とベスト8へ進出した。

記録者

光田康志

平成16年度 全国高等学校総合体育大会
(第72回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成 16 年 8 月 17 日

会場: 島根県:江津市民プール

ゲーム

6

帽子の色	白	$\left. \begin{array}{l} 0 - 2 \\ 0 - 2 \\ 0 - 2 \\ 2 - 4 \\ \text{EX.} \\ - \\ - \\ \text{P.T.} \\ - \end{array} \right\}$	青	帽子の色
	長浜北星高校			明治大学付属中野高校
	2			10
天候:	曇り			審判1: 榎本 隆
				審判2: 若林 和人

戦評

長浜北星高校は7年前に「長浜商工」から現在の校名に変更、「自己決定」「自己責任」をモットーとして何事にも前向きで取り組む精神を培っている。S56:千葉大会優勝の戦績をもち、今大会は6年連続23回目の出場となる。今年は選手層が薄く(9名)、十分な練習ができなかったが、「強弱をつけたプレースタイル」を貫き、昨年同様ベスト8入りを狙う。

明治大学附属中野高校は、過去9回のインターハイ優勝戦績(参加校中最多)をもつ名門校である。水球以外にも、相撲部や山岳部が全国レベルで活躍している。「カウンター攻撃からのシュートチャンスメイク」をチームカラーとして、インターハイ10回目の優勝を目指す。

1P、明中は長浜2番、二添のセンタープレーをケアし、GK棚村を中心にゾーンDFでスタート。攻撃は持ち前のタイミングのよい飛び出しで得点を狙う。長浜は何としてもパワフルなセンター仁添にボールを集め、得点または退水誘発からチャンスをつくりたいところ。この試合、先取点は明中、ドライブ途中で退水を誘い、パワープレーからローテーションで崩し、2番木村がゴール。さらに4'5"ゴール前でフリーになった木村が2点目。長浜も残り48"退水のチャンス。9番、中野が右サイド(退水セットのポジション)からシュートを放つが惜しくも、ボールはゴールの外。明中、2点リードで終了。

2P、長浜に最初のチャンス。4'47"、9番中野が個人技で力強く回し込み退水を誘発。ベンチは迷わずタイムアウト、1点を何としても欲しいタイミング。しかしながら、GK棚村と集中したDF陣の前にゴールは奪えない。長浜の6-5のカウンターチャンス、焦りからカバーリング前にパスミス。遅れていた明中2番、木村が2'20"に逆チャンスで本日3点目をゲット。長浜は流れを呼び込めず、50秒には明中、10番宮本にゴール前で加点を許し4点ビハインドで3Pへ。

3P、明中DFを崩し、チャンスメイクしたい長浜は、ドライブ攻撃で隙を狙うが、落ち着いている明中選手達はラストパスを通させてくれない。攻めに苦しむ長浜に対し、明中は1-0速攻で町田が、さらに退水誘発から、木村が素早く得点。終了間際、長浜9番、中野が1-0速攻に出るが、相手GK棚村にパスカットされ3P終了。

4P、明中GK棚村がゴール前でボールを沈めペナルティーをとられる。長浜9番、中野がペナルティーを確実に決め、長浜1点目。さらに2'2"退水から、粘り強くセンターで攻撃を続けてきた仁添が長浜2点目を決める。明中は攻撃を緩めず、町田、木村が得点を加え試合終了

明中の「カウンター攻撃からのシュートチャンスメイク」スタイル、今後の試合にさらに磨きをかけて頑張りたい。GK棚村を中心とするDFも今後楽しみである。長浜は1,2年中心のチームであり、今回の試合経験を次につなげていって欲しいものである。

記録者

木倉 敏彦

平成16年度 全国高等学校総合体育大会
(第72回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成 16 年 8 月 18 日

会場: 島根県:江津市民プール

ゲーム

7

帽子の色 白
四日市中央工業高校
7

1	-	4
0	-	4
1	-	3
5	-	4
	EX.	
	-	
	-	
	P.T.	
	-	

青 帽子の色
江津高校
15

天候: 曇り

審判1: 大川和二郎
審判2: 南部 健

戦評

今年で22回目の出場となる四日市中央工業高校。スポーツが盛んな学校で「四中工」の呼び名でサッカーが全国的に有名。4年ぶりの出場で、今までの練習の成果を全力で出し切るのが目標。江津高校は地元枠での出場。宮原先生が赴任されて結成したチーム。地元での勝利を目指して強化練習を続けてきた。元気の良さが取り柄で、チームワークで勝利の目標を達成できるか。満員のスタンドの応援を受けて、その実力を遺憾なく発揮して欲しい。

1P、チームカラーである赤のシャツを着た応援団の声援を受けて江津からの攻撃。6'39"江津3番田中が相手マークの離れたときにシュートして得点、江津が先制する。5'24"四中工2番浜嶋が退水、四中工の必死のディフェンスで江津のチャンスがつぶれたかに思えたが、セット攻撃になり、4'51"江津6番浅原がゴール前からバックシュートで得点。その後、激しい攻防が続いたが、2'36"江津3番田中がミドルシュートを決める。江津はGK佐々木を中心に四中工の攻めを防ぎ、5'53"番田中が本日3点目となるミドルシュートを決める。四中工は江津5番宮原が退水しているときに、6番西田がゴールを決めて1点を返すのが精一杯の状況。江津3点リードでピリオドを終了。

2P、6'17"四中工7番蔭山が退水、6'10"江津2番角折が得点。4点差になる。四中工は6番西田を中心に反撃をするものの、江津のGKにセーブされ得点できない。5'30"江津5番宮原から逆サイドの4番右田にいいパスが出て得点。決め手を欠く四中工に対して、江津は波に乗って攻める。30"江津5番宮原が得点。00"には江津3番田中のロングバウンドシュートが決まって7点差でピリオド終了。

3P、江津は休みなく攻撃を行い、6'30"四中工9番大威が退水、6'28"江津4番右田が得点を決める。四中工も反撃して、6'10"江津3番田中を退水にするが得点につながらない。逆に5'55"江津4番右田がゴールを決める。一進一退の攻防が続くが、試合の流れは完全に江津ペース。3'01"四中工7番蔭山がフローティングしてシュート。2'08"江津5番宮原がミドルシュートを決めるなど、激しい攻防が続いている。

4P、6'43"四中工2番浜嶋が退水で永久退水になるが、GK西田芳を中心に必死のディフェンス。5'51"江津2番角折が得点。四中工も最後の力を振り絞って反撃し、5'26"に5番菅野がカットインからシュート、4'21"に10番蔭山がカウンターからシュートして得点していく。その後も江津は3番田中、9番横路が得点、四中工も6番西田、3番大川が2得点と両校とも譲らぬ攻防が続く。00"江津3番田中が本日6点目となるシュートを決めてゲームセット。追いつがる四中工を、江津が15対7で振り切った。

江津は地元開催のプレッシャーを力に変えてプレーしていた。大声援がすばらしいプレーの後押しをしていた。選手のムードも絶好調の様子。上位入賞を期待したい。四中工は最後まであきらめずに攻撃を繰り返していた。チャンスをミスでつぶす場面も見られたが、1・2年生の多いチーム。来年へとつながる試合だったと思う。

記録者

光田康志

平成16年度 全国高等学校総合体育大会
(第72回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成 16 年 8 月 18 日
会場: 島根県:江津市民プール

ゲーム

8

帽子の色	白	$\left. \begin{array}{r} 3 - 0 \\ 3 - 1 \\ 4 - 3 \\ 3 - 0 \\ \text{EX.} \\ - \\ - \\ \text{P.T.} \\ - \end{array} \right\}$	青	帽子の色
	長崎西高校			黒沢尻工業高校
	13			4
天候:	晴れ			審判1: 牧田 和彦 審判2: 榎本 隆

戦評

長崎西高校は、昨年の長崎地元インターハイで見事ベスト8入賞を果たした。創部5年目、校訓である「自律」のもと、勉強と部活を両立し、昨年に引き続きインターハイ出場を勝ち取った。土日も補習・試験があり、普段から十分な練習や遠征などはできないが、持ち前の「集中力」で今大会も一戦一戦大切に戦い、勝利を目指す。

黒沢尻工業高校も、'99年岩手地元インターハイで見事ベスト8入賞を果たしており、以来5年ぶりの出場となる。創立65周年を迎え、他スポーツでは弓道、ボクシングが全国で活躍している。冬期間の練習場所が無いこと、練習相手がいない(県内唯一チーム)など、長崎西と理由は異なるものの、十分な練習が組めないことでは同じ環境である。3年生を中心に初戦突破を目指す。

両校ともまずは一回戦突破を何が何でも果たしたいところである。フレッシュな展開に期待したい。台風の影響か?山側から海側へ抜けるが風がやや強くなり始めた。試合への影響が気になる中、1Pが開始された。開始早々、長崎西の馬場が意表をつくロングシュート。得点には至らなかったが、この後の展開を物語っていた。長崎はこの後、5'43"馬場のセンターからのシュート、5'15"、2'24"同じく馬場のワンマン速攻と得点を重ねる。対する黒沢尻工業は、6番小原をセンターに入れ、5番及川がAゾーンへのドライブ試み攻撃を展開する。しかしながら、長崎西のAゾーンへのDFは厳しくパスが思うように回せない。1'20"長崎西の退水、パワープレーから得点を狙うが、慎重になりすぎたのか思い切ったシュートが放せず、1Pが終了。

2Pも1P同様、長崎西の3-2、2-1等のカウンターが3本決まる。黒沢尻工業は、自分たちのプレースタイルを変えず、Aゾーンへのドライブを再三、仕掛ける。ようやく、46"エース及川が渾身の回し込みから、DFのプレスをかわし得点。3Pにつながるシュートとなるのか?

3P、さらに風が強くなり、これは何かが起こる前兆なのか?しかし、先手はやはり長崎西、3-2のカウンターから3番松本が本日2点目。さらにこのピリオド、エース馬場が3得点。黒沢尻工業エース、及川も負けじと勢いに乗り3得点。3ピリオド終了間際2"の8~9mの執念のシュートは見事であった。

4P、再三の絶好のシュートチャンスを演出するが、詰めが甘く加点できない長崎西。何とか相手ミスから、必死に得点につなげようと試みる黒沢尻工業。しかしながら泳力で勝る長崎西が試合終了、0"で7mループシュートを決めゲームを締めくくった。

2年連続ベスト8進出を決めた長崎西高校。気がつけば馬場が合計9得点の大活躍。次の試合ではセットオフェンスからの展開も重要になると予想できる。いかに、戦うか?楽しみとしたい。黒沢尻工業、敗れはしたものの、最後まで自分達のプレーパターンを信じ戦い続けた姿に、高校生らしい爽やかさを感じた。

記録者

木倉 敏彦

平成16年度 全国高等学校総合体育大会
(第72回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成 16 年 8 月 18 日

会場: 島根県:江津市民プール

ゲーム

9

帽子の色	白	$\left. \begin{array}{ccc} 2 & - & 2 \\ 2 & - & 3 \\ 0 & - & 2 \\ 1 & - & 3 \\ & \text{EX.} & \\ & - & \\ & - & \\ & \text{P.T.} & \\ & - & \end{array} \right\}$	青	帽子の色
	前橋商業高校			秀明英光高校
	5			10
天候:	晴れ			審判1: 井上嘉隆
				審判2: 当麻成人

戦評

前年度優勝校の前橋商業高校。過去7度の優勝経験がある。今年目標はもちろん全国制覇、2連覇目指して気力十分。秀明英光高校は1回戦の埼玉栄戦を無難に乗り切り2回戦に進出。関東大会決勝と同じカードになったこの試合、関東大会では秀明英光高校に軍配が上がったが、今回はどうだろうか。

1P、激しい攻防で始まったこの試合、マンツーマンのプレスでディフェンスしている前商に対して、秀明は左サイドのプレーヤーを下げるゾーンディフェンス。相手の攻撃をお互いにつぶしていく。4'43"秀明はカウンターからのアーリーオフェンスで4番浜田がループシュートを決め先取点。前商はフローターにボールを回そうとするが、秀明のゾーンディフェンスにうまく守られて攻撃できない。3'47"前商7番五十嵐が右上からのハーフループシュートを決め同点。前商はプレスの厳しいディフェンスからリズムをつかんで攻撃していく。2'11"前商4番柳瀬がフローターの位置から上に上がってシュートを決め1点リード。今ひとつ攻めきれない秀明であったが、2'0"に5番若松がカウンターでシュートを決め同点にしてピリオド終了。

2P、GK森脇を中心とした堅い守りからのカウンターでリズムをつくっていく秀明。5'44"と4'57"に11番山口が得点し試合の主導権を握っていく。秀明のゾーンディフェンスでフローターの柳瀬浩・柳瀬彰を生かし切れない前商だが、プレスのディフェンスからの攻撃でリズムをつくり、2'09"に5番中澤、1'16"に4番柳瀬が得点する。前商の激しい攻撃が続き、秀明も必死のディフェンス。終了間際01"秀明4番浜田がカウンターでシュートを決め、秀明1点リード。

3P、6'02"前商3番柏木が退水、5'41"秀明4番浜田が得点を決め2点差。秀明のゾーンディフェンスを攻めきれない前商。一進一退の攻防が続く中で、徐々に秀明ペースになっていく。3'44"秀明6番染谷がループシュートを決め3点差。前商もチャンスをつくるが、秀明のGK森脇に阻まれるケースが多い。

4P、開始早々から秀明の激しい攻撃、前商は秀明のゾーンディフェンスを攻めきれないでいる。4'14"秀明6番染谷が、ゾーンディフェンスでのパスカットでカウンターを仕掛け得点。前商も3'26"6番柳瀬がフローティングシュートで得点、反撃の糸口を探す。しかし、泳力・スピードに優る秀明が、2'02"に6番染谷のカットインからのシュートで4点差。前商はたまたずタイムアウト。何とか流れを変えようとするが秀明の勢いは変わらず00"秀明4番浜田の得点でゲームセット。

秀明はゾーンディフェンスからのカウンターで試合の流れをつくり、得点を重ねていった。前商のフローターを全員で守り、それを攻撃につなげていったのは見事であった。前商はプレスのディフェンスで相手の攻撃を防いでいたが、攻撃面でもう一工夫欲しかった。前商は大会毎に力をつけてくるチーム。国体に期待したい。

記録者

光田康志

平成16年度 全国高等学校総合体育大会
(第72回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成 16 年 8 月 18 日

会場：島根県：江津市民プール

ゲーム

10

帽子の色	白	$\left. \begin{array}{ccc} 1 & - & 1 \\ 1 & - & 2 \\ 1 & - & 2 \\ 3 & - & 1 \\ & \text{EX.} & \\ 0 & - & 0 \\ 0 & - & 1 \\ & \text{P.T.} & \\ & - & \end{array} \right\}$	青	帽子の色
	鹿児島南高校			由良育英高校
	6			7
天候：	晴れ			審判1：若林 和人
				審判2：大川和二郎

戦評

鹿児島南は、一回戦の関西高校と接戦の末、1点差で破りこの試合に臨む。昨日の試合を経験したことで、選手達にも落ち着きが出てきてパフォーマンスも上がるものと期待したい。

由良育英高校は、昨年の第4位チーム。過去4年間、連続ベスト4入りしている実力校である。由良育英高校という校名での出場は今大会が最後(校名が変更される)、一つでも上位を目指し戦いたいところ。

両校とも、カウンター攻撃を今大会のプレースタイルにしている。スピーディーな展開が予想される。

試合前、両校ともベンチ横にて円陣を組み、個々の志気を確認し合う。この試合にかける両校の意気込みが伝わってくるかけ声であった。鹿児島南はセンターに6番山内、10番堂下を交代しながら起用、対する由良育英高校もセンターにサウスポアの5番石田を起用、両チームともセンター中心の攻防となった。

1P、両チームのセンターバック(鹿児南：宇田、由良：安田)が確実に両チームセンターを抑える。「センターがダメならドライブ攻撃から」と言わんばかりに、4'59"由良、森田が左からのセンタリングを押し込む。鹿児南もお返しとばかり、残り20"で3番有村が右サイドからのパスをゴールへ沈めた。一進一退が続く。

2P、開始早々、6'29"鹿児南6番、山内がセンターでようやく得点、すかさず6'06"由良、新玉が個人技、回し込みで追撃。その後、両チーム見応えのあるセンター・センターバックの攻防が続く。残り21"由良、2番森田がゴール前で見事なバックボレーシュートを決め1点突き放す。

3P、1、2P同様、目の離せない攻防、5'15"由良、7番新玉がワンマン速攻、3'29"に相手DFがセンターヘルプに動いたところ、フリースローからのパスを受け2点を取る活躍。4'48"にも鹿児南、7番加藤が中盤ボールスティールから、GKがエリア外に飛びだしているのを見逃さずループシュートを決めた。3P終了して、3-5。まだ両チームとも運動量は落ちていない。

4P、怒濤の鹿児南パワーで、大木、堀ノ内、山内の3連続ゴールを奪い取り大逆転。このままでは終われない由良が1'49"退水を誘発、しかし、6番安田のシュートはGKセーブ。意気消沈するところ幸運にも、ターンオーバー時に相手エクスクルージョンファールが発生。この好機を1'10"由良、4番西川が決め、同点。今大会初の延長戦へ突入。延長前半はお互い疲れも見せず、両者一步も譲らない。一つのミスが勝敗を分けることは選手全員理解しているはず。お互い大切に攻防を終え0-0、点は動かず。さあ、延長後半、勝利の女神はどちらに微笑むのか？ 値千金のシュートを鮮やかに決めたのは由良、3番サウスポアの島。センターケアでDFが下がったところを5m付近から躊躇せず放ったシュートであった。

激戦を制した、由良育英高校おめでとう。明日からの試合に向け俄然志気が高まったと思う。さらなる躍進を期待したい。残念ながら敗退した鹿児島南選手達、素晴らしい数々のプレーをありがとう。この敗退の悔しさを、今後の活躍につなげて行って欲しい。

記録者

木倉 敏彦

平成16年度 全国高等学校総合体育大会
(第72回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成 16 年 8 月 18 日
会場: 島根県:江津市民プール

ゲーム

11

帽子の色	白	$\left. \begin{array}{r} 0 - 2 \\ 0 - 4 \\ 0 - 4 \\ 2 - 5 \\ \text{EX.} \\ - \\ - \\ \text{P.T.} \\ - \end{array} \right\}$	青	帽子の色
	尼崎北高校		富山北部高校	
	2		15	
天候:	晴れ		審判1:	南部 健
			審判2:	折笠敬一

戦評

尼崎北高校は3年連続6回目の出場。18年には国体を控え、準備・強化を始めている。全員で守り、全員で攻めることをモットーに悔いが残らない試合をしたいと抱負を語っている。富山北部高校は高松南高校に勝って2回戦に進出。シュートの粗さが目立ったが、どう修正してきているかが鍵。

1P、両チームとも決め手のない攻防が続いている中で、3'48"富山7番大井がループシュートを決めて先制。その後も富山はシュートミスが多く、尼北は攻め手のない状況が続く。38"富山7番大井が2本目のループシュートを決めて2対0。富山2点リードでピリオドが終了。

2P、ゆっくりとした攻防の中で、6'16"尼北11番奥田が退水、しかし富山はそのチャンスを生かすことができない。攻防のメリハリがつけにくい状況の中で、いかに自分のチームに試合の流れを引き寄せるのかが勝負のポイントになる。4'57"尼北2番篠田が退水、それを4'35"富山6番池上がゴール。尼北は上からのミドルシュートのみで攻め手がいない状態。2'18"富山7番大井が相手のパスミスからカウンターでシュート。4点差になる。富山にもシュートミスが多く見られたが、54"富山7番大井がミドルシュート、また20"には9番松岡がカウンターでシュートと徐々に点差を広げていく。6対0で富山リード。

3P、攻め手のない尼北に対して富山は泳力を生かした攻撃を仕掛けてくる。6'08"富山6番池上、5'27"には2番保田がゴールを決め、富山が得点を重ねていく。尼北は4'29"富山8番柴山の退水を攻めきれず、逆に3'58"富山3番武田にゴールを許してしまう。ゆっくりとした攻撃をしてくる尼北に対し、富山は執拗にカウンターを仕掛ける。1'06"富山5番横井がシュートを決めて10対0。試合の流れを決定づけた。

4P、何とか得点をあげようと尼北は攻撃を仕掛けるが、決め手に欠けるため得点できない。逆に富山は泳力とスピードを生かして得点を重ね、点差を広げていく。1'32"尼北4番松田がゴール前でパスをもらってシュート。1点目を挙げる。9"には尼北2番篠田がペナルティーシュートで2点目。しかし反撃もこれまで。15対2で富山が勝って試合が終了した。

尼北は最後まであきらめることなく攻めていたが、大量失点の後では攻撃も鈍るばかり。2年後の国体に向けて、これからまた頑張る強化をしていって欲しい。富山は泳力、スピードに優っていたが、攻守にミスが多く、これをどう修正していくのかが上位進出の鍵だろう。

記録者

光田康志

平成16年度 全国高等学校総合体育大会
(第72回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成 16 年 8 月 18 日
会場: 島根県:江津市民プール

ゲーム

12

帽子の色	白	$\left. \begin{array}{l} 2 - 1 \\ 2 - 0 \\ 3 - 0 \\ 3 - 0 \\ \text{EX.} \\ - \\ - \\ \text{P.T.} \\ - \end{array} \right\}$	青	帽子の色
	鳥羽高校		山形工業高校	
	10		1	
天候:	晴れ		審判1:	榎橋 邦広
			審判2:	牧田 和彦

戦評

鳥羽は一回戦、金市工に機動力を生かした多彩なOF、DFで快勝し、2回戦に挑む。山形工業高校は、昨年の長崎インターハイ準優勝チーム。今大会で7年連続17回目の出場となり、過去に2回の準優勝戦績がある。「個性を生かした戦法」で念願の初優勝を狙う。プレースタイルの違う両校、優勝を狙う上で超えなければならない難関である。

ゲームスタートは強風の為、本部席側よりレフェリーのボール投入で開始された。風下サイドは鳥羽、風上サイドは山工である。両チームともパスワークには細心の注意を払わなければならない状況である。鳥羽は昨日同様、スピードのあるDFワークからのカウンター、アーリーオフェンス狙い。この姿勢に変化はない。山工は、6番のセンター庄司にボールを集め攻撃態勢をとりたところ。

1P、開始早々、6'03"山工、エース庄司がセンターからバックシュートを決め、先取点。しかし、山工のセンター陣に対し鳥羽は一步も下がらずマンツーマンDFで対応。お家芸のアーリーオフェンスへつなげる。約3分間の激しい競り合いが続いた後、3'07"に鳥羽の筈井が相手DFがセンターケアに下がったところを逃さず得点、同点に追いつく。さらに1'09"鳥羽1年、幡山がカウンターで追加点。このピリオド2 - 1鳥羽リードで終了。

2P、1P山工は鳥羽のオールコートプレスに苦しみ、正確にパスを出せず、センターからの攻撃チャンスが少なかったように思われる。是非、鳥羽DFを崩し攻撃チャンスを見いだして欲しいところ。鳥羽は風下で泳ぎ上がりに体力が必要であるにもかかわらず、まったく泳ぎが止まることがない。山工も鳥羽のカウンターを警戒、攻撃陣以外のカバーリングが早くなる。4'49"退水から鳥羽のパワープレー。確実に退水セットポジションから幡山が今日2点目を決める。山工、フォワード陣(3番奈良崎、4番菅原、5番菅原、7番吉本)も交代で果敢に攻め込み庄司にタイミングを合わせようと試みるが、鳥羽DF陣が許さない。残り27"、4 - 3のカウンターから鳥羽、1年千田が高い打点からのパウンドシュートを決める。山工選手達に焦りの表情が見える。

3P、何とか鳥羽DFを崩したいと攻防を繰り返す山工と全く隙を見せる気配のない鳥羽の激しい攻防が約5分間続いた。山工の得点で動けば流れが傾くと思われたが、得点をとったのは鳥羽5番筈井であった。緊張感が途切れたのか、山工はこの直後、鳥羽2番格谷に連続2失点を許す。

4P、最後まで諦めず、山工は果敢に鳥羽に挑むが、ドライブのスピードについていけず2回の退水を犯す。鳥羽は2本ともクイックゴールで加点し、さらに終了間際15"に筈井が鳥羽10点目を奪い、ゲームセット。

ベスト8入りした鳥羽高校、試合が終わってみれば失点1、見事な試合展開であった。山形工業は自分達のプレースタイルを十分に表現できなかったことが一番悔しいのではないだろうか？敗れはしたものの、将来有望な選手が多いと感じる。悔し涙をバネに、個性にさらに磨きをかけ次の試合につなげてくれることを切望する。

記録者

木倉 敏彦

平成16年度 全国高等学校総合体育大会
(第72回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成 16 年 8 月 19 日

会場: 島根県:江津市民プール

ゲーム

13

帽子の色	白	$\left. \begin{array}{r} 6 - 1 \\ 1 - 1 \\ 6 - 3 \\ 3 - 1 \\ EX. \\ - \\ - \\ P.T. \\ - \end{array} \right\}$	青	帽子の色
	秀明英光高校			那覇商業高校
	16			6
天候:	曇り			審判1: 井上嘉隆
				審判2: 折笠敬一

戦評

秀明英光高校は、埼玉栄・前橋商業といった関東ブロックの有力校に勝ってベスト8に進出してきた。日本選手権4位の実力を遺憾なく発揮している。那覇商業は大垣東に勝ってベスト8へ進出。沖縄のわくわく水球を見せてくれた。秀明英光高校の洗練されたプレーに那覇商業がどう対応していくかが見所だろう。

台風の接近にともなう強風が試合にどの程度影響するのか心配される中、1Pが開始された。秀明は守りからのカウンター攻撃、那覇もGK山田を中心に全員でディフェンスしている。5'47"秀明2番豊田がゴール前で回し込み、DFをふりほどいてバックシュートで先制。那覇も果敢に攻撃を仕掛けるが、秀明のGK森脇の攻守に阻まれる。秀明はその後も立て続けにゴールを決め那覇を突き放していく。スタンドからの熱い声援の中、45"那覇7番伊禮から4番伊禮にいいパスが通り得点。一矢を報いた。ピリオドを終了して6対1、秀明5点リード。

強風の中でも時折突風が吹き荒れる状況の中2Pが始まった。立ち上がり那覇は、シュートカットからのカウンターを2番山里、5番與那原が仕掛けるが、惜しくもはずしてしまう。逆に秀明は5'11"11番山口が得点。確実に決めていく。那覇はマンツープレスで必死に守っている。4'21"那覇4番伊禮が意地のミドルシュート。このピリオドは互角の状態。1'30"に那覇のGK山田が退水。このピンチも那覇はディフェンス陣が手を挙げて必死にゴールを守り抜く。秀明は状況判断、泳力、スピード全てに上回っているが、那覇も全員で必死になってディフェンスしている。攻撃はボールをいかにつなげるかが課題。

3P、那覇の追撃なるかと思われたが、秀明は那覇ディフェンスの隙をついて次々に得点。4'29"の4番浜田の得点で10対2、勝負が決まったように思えたが、ここから那覇は、2番山里、8番仲村、もう一度2番山里と3連続得点。逆転に望みをつなく。しかし秀明は、その後3連続得点して13対5で終了。

4P、那覇はディフェンスからのカウンターで秀明9番田中の退水を取る。すかさずタイムアウト。何とか得点を挙げて追撃しようとするが、秀明の堅い守りに阻まれて得点できない。秀明は逆に確実に得点を重ねていく。1'55"那覇4番伊禮が執念のバックシュートを決めるが反撃もここまで。16対6で秀明が勝った。

那覇は最後まであきらめずに、攻守に全員がそれぞれ個性あふれるプレーで全力でプレーしていた。特に2番山里、4番伊禮のがんばりは見事だった。秀明は確実なディフェンスからの攻撃で着実に得点を挙げベスト4へ進出した。

記録者

光田康志

平成16年度 全国高等学校総合体育大会
(第72回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成 16 年 8 月 19 日
会場：島根県：江津市民プール

ゲーム

14

帽子の色	白	$\left. \begin{array}{r} 1 - 1 \\ 1 - 2 \\ 1 - 0 \\ 0 - 0 \\ \text{EX.} \\ 0 - 1 \\ 0 - 2 \\ \text{P.T.} \\ - \end{array} \right\}$	青	帽子の色
	明治大学附属中野高校			由良育英高校
	3			6
天候：	曇り			審判1： 榎橋 邦広 審判2： 当麻 成人

戦評

長浜北星高校を10 - 2で撃破し、ベスト8に名乗りを上げた明大中野。持ち前のカウンター攻撃とGK棚村を中心とする防御を徹底し、ベスト4進出を果たしたいところ。一方の由良育英は鹿児島南を延長戦で敗り、勝ち上がった。サウスポーター石田を中心とした攻撃で、5年連続のベスト4入りを狙う。試合巧者である両チーム、接戦になるのは必至である。目の離せない一戦である。

会場は昨日にもまして風が強くなり、試合展開への影響が気になるところ。風の影響にびくともしない、質の高い試合を願って、レフェリーの手からボールが投入された。風上由良、風下明中。

1、2Pお互いのプレースタイルを貫き、攻防を繰り返す。風の影響は大であり、特にGKからのパスがピンポイントに飛ばせない。攻撃では、明中5番町田がスプリント能力を生かしカウンターから2得点。負けじと由良はエース石田がパワープレーとセンターから切れ味鋭いシュートを沈める。昨日のラッキーボーイ3番島もカウンターで得点。風に悩まされながらも、両チームGK明中棚村、由良河上の好セーブが試合を引き締め、2 - 3の由良リードで折り返す。

コートチェンジし、風下風上が変わった3P、選手達のパス感覚の修正が必要である。明中はセンターにドライブから町田も加え攻撃に厚みを出す。由良は退水の好機をTOで、作戦を確認し突き放しにかける。しかしながら、GK棚村を崩せず、反対に明中お得意の逆チャン速攻で町田が同点シュートを決める。由良は悪いムードになりながらも、その後ギリギリで踏ん張り3P終了。

同点で4Pへ突入、「カウンター・ゴール前スクリーンからの攻撃を狙う明中」と「ダブルフロートからシュートを狙う由良」の死闘は、残り7"明中TOからの展開も実らず、このピリオド0 - 0で今大会2回目の延長戦に突入。(合計3 - 3)

延長前半、両者試合の様子を伺いながらの慎重な攻防が展開された。先手は由良、明中センターの攻撃を凌ぎ、バックが飛び出し4 - 3のカウンターへ。勝負は外周からではなく、相手DFをかわし、中の5番森田へのだった。森田は棚村の壁を破り、ゴールをもぎ取る。

延長後半、ベスト4をかけ最後の3分が始まった。明中はM-DFからカウンターを狙う。マイボールと見え飛び出したが、アンラッキーにもルーズボールは由良ボール。そのボールを2'26"由良森田が明中ゴールに突き刺す。まだまだと、明中も必死のカウンターでチャンスメイク、しかし棚村のパスは風の影響もありノーマークに届かず。逆に由良のアーリーオフenseに合い1'05"由良石田がミドルで3点差としゲームを決めた。

ベスト4進出をかけた試合にふさわしいレベルの高い試合であった。両校選手の最後まで粘り強くプレーし続けた姿に対し、観覧席からも感動の拍手が送られていた。風の女神は由良に微笑んだ。

由良育英高校、5年連続のベスト4進出おめでとう。

記録者

木倉 敏彦

平成16年度 全国高等学校総合体育大会
(第72回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成 16 年 8 月 19 日
会場: 島根県: 江津市民プール

ゲーム

15

帽子の色	白	$\left\{ \begin{array}{l} 0 - 6 \\ 0 - 3 \\ 0 - 4 \\ 1 - 0 \\ \text{EX.} \\ - \\ - \\ \text{P.T.} \\ - \end{array} \right\}$	青	帽子の色
	長崎西高校		鳥羽高校	
	1		13	
天候:	曇り		審判1:	南部 健
			審判2:	榎本 隆

戦評

見事なカウンター攻撃で2年連続ベスト8の長崎西高校。2回戦の勢いをどうこの試合に結びつけてくるのか。鳥羽高校はお家芸といわれる堅いディフェンスで勝ち上がってきた。攻撃力もあり、この試合をどう戦うのか楽しみである。

1P、風上に位置した鳥羽が開始早々エンジン全開、怒濤の攻撃を繰り返す。これに対して長崎は鳥羽のプレスに対してボールを展開することができない。5'44"鳥羽4番芝山、5'00"鳥羽5番筈井と鳥羽が連続得点。激しい攻撃を仕掛けてくる鳥羽に対して、長崎は下がつて全員でディフェンスしようとするが止められない。その後も鳥羽の4連続ゴールで6対0。鳥羽6点リードでピリオド終了。

2P、鳥羽の執拗な攻撃を何とか凌ぐ長崎、攻撃の糸口を探すが、鳥羽の厳しいディフェンスの中ではなかなか見つからない。鳥羽の攻撃の勢いは止まらないがシュートが決まらず一進一退の状況。長崎は4番馬場、5番奥田を中心に攻めるが得点できない。鳥羽は長崎ディフェンスの隙をついて、4'03"2番格谷が得点。その後も2得点を加え、鳥羽9点リードとなる。

3P、攻守のリズムが崩れない鳥羽は、5番筈井、10番千田と確実に得点を挙げ、点差を広げていく。風上にベンチを移した長崎は、何とか1点を取ろうと攻撃を仕掛けるが、鳥羽の堅い守りを崩すことができない。長崎4番馬場の気力を振り絞った攻撃も決まらず、鳥羽が得点を重ねていく。13対0で鳥羽リード。

4P、開始早々長崎が攻撃、しかし4番馬場のシュートは惜しくもはずれる。両校とも決め手を欠いた攻防の中、2'46"長崎3番松本がカウンターからシュートを決め長崎初得点。反撃の狼煙を上げるが時すでに遅く、13対1で鳥羽が勝利した。

長崎は、点差は開いたが全員が一丸となってプレーを行い、最後の最後まであきらめずに戦っていた。2年連続ベスト8の力を今後も高めていって欲しい。鳥羽は今までの試合全てが1失点ずつという堅い守り。いつもの鳥羽らしさが十分に見られている。ベスト4進出で、もっといい試合を見せてくれると思う。

記録者

光田康志

平成16年度 全国高等学校総合体育大会
(第72回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成 16 年 8 月 19 日
会場: 島根県:江津市民プール

ゲーム

16

帽子の色	白	$\left. \begin{array}{ccc} 2 & - & 1 \\ 1 & - & 1 \\ 3 & - & 2 \\ 5 & - & 2 \\ & \text{EX.} & \\ & - & \\ & \text{P.T.} & \\ & - & \end{array} \right\}$	青	帽子の色	
	富山北部高校			江津高校	
	11			6	
天候:	曇り			審判1: 若林 和人	
				審判2: 井上 嘉隆	

戦評

1回戦高松南、2回戦尼崎北を撃破しベスト8進出を果たした富山北部。H11岩手インターハイ以来のベスト4進出を狙いたいところ。一方の江津高校は、四日市中央工業を大差で敗り、インターハイ初勝利をあげた。地元の大声援に応え、初出場でベスト4入りを果たしたいところ。プレッシャーの中、持ち前の全員攻撃・全員防御が、いかに発揮できるかがポイント。

富山北部は3番センター武田、5番ドライバー横井を中心に攻めを組み立て、どう攻め入るかがポイント。江津は6番センター浅原、2番センター・センターバックの角折、4番ドライバー右田をフル回転させたいところ。

1P、両者ベスト4進出をかけ、少し緊張気味でスタート。口火を切ったのは、富北5番キャプテン横井のミドルであった。江津は4'17"退水のチャンス、風の影響かパスカットされ同点に追いつけず。反対に富北は7番大井の2-1カウンターで追加点。この後、一進一退の攻防が続く。泳ぎのスピードが落ち、互いセットの応酬となった直後1'40"、江津6番浅原がセンターから見事なハンツータップシュートを決め、追撃態勢。観覧席は大盛り上がり。江津選手達も波に乗れそう。応援の後押しを受け20"江津退水の好機を掴むが、左サイドから中へのパスは乱れ同点のチャンスを逃す。2-1富山北部1点リードで1P終了。

2P、開始早々6'39"、強風によりゴールが倒れ、約5分間の試合中断。この中断は、江津に流れを向けた。6'07"、富北が江津6番浅原の粘り強いセンタープレーに痺れを切らし退水、江津4番右田のシュートで同点。さらに4'46"、3'44"にも右田の活躍で退水を誘発、パワープレーで逆転のチャンス。しかしながら、富北GK日水のプレッシャーからか？好機をシュートミスで逃す。必死な攻防が続く中、富北横井が5-4カウンターからミドルを決め、2Pが終了。

3P、富山は地元パワーに押され、雑なDFプレーが増え退水が増える。退水をいかに守るかが勝敗の分かれ目になりそう。まず、先手2点を富北(横井、武田)がゲットするが、江津もパワープレーから4番右田が執念のゴールを奪う、5-3。その後、お互い退水からのパワープレーを富北、保田と江津、浅原が1点ずつ決め、6-4富山リードでいよいよ、最終ピリオドへ。

4P、江津は自分達のプレースタールを貫き、センター右田、角折にボールを集め反撃のチャンスを狙う。しかし、富北のセンターケアの下がりにパスが繋がらず、攻め苦しむ。江津が少し疲れを見せた隙を逃さず、富北、武田の連続得点。江津もパワープレーから角折が得点。「まだ行くぞ！」と粘り強さに凄みを感じる。3点差。しかしながら、富北、横井が2連続ゴールで加点。1'30"江津、右田が左サイドから絶妙なループシュートをゴール隅に沈めるが、追撃及ばず無念のゲームセットとなった。

富北は岩手インターハイ以来のベスト4進出おめでとう。次の鳥羽戦いかに戦うか？楽しみにしたい。一方、江津は会場の大声援を受け、富北に対し真っ向勝負を挑んだが、力及ばず勝利を勝ち取ることは出来なかった。しかし、初出場ながら強力なチームであり、今後の成長が楽しみである。懸命に戦い抜いた選手達に観覧席から割れんばかりの拍手が送られていた。

平成16年度 全国高等学校総合体育大会
(第72回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成 16 年 8 月 19 日
会場: 島根県:江津市民プール

ゲーム

17

帽子の色	白	$\left. \begin{array}{r} 3 - 2 \\ 2 - 4 \\ 2 - 0 \\ 2 - 1 \\ \text{EX.} \\ - \\ - \\ \text{P.T.} \\ - \end{array} \right\}$	青	帽子の色
	秀明英光高校			由良育英高校
	9			7
天候:	曇り			審判1: 牧田和彦 審判2: 折笠敬一

戦評

危なげなく勝ち進み、その実力を遺憾なく発揮している秀明英光高校。2度の延長戦を勝ち抜いて準決勝に進出してきた由良育英高校。決勝進出を賭けたこの試合、強風の中、風のいたずらに負けない両校の熱い戦いを期待したい。

1P、静かな立ち上がりの中で秀明がセットでボールを展開、5'45"に秀明12番乙女がカットインしてシュート。秀明が先取点を取る。秀明・由良ともに相手のディフェンスを攻めきれない状況の中、由良はカウンターから7番新玉がシュート、シュートはずれたが、秀明のファールを誘い3'50"由良7番新玉が得点、同点となる。その後攻防が続き、2'34"秀明5番若松がゴール前から得点(2対1)、その後も秀明が由良ゴールに襲いかかるが、由良のGK河上に阻まれる。徐々に秀明がペースをつかんでいき、1'23"秀明12番乙女が得点(3対1)。由良も反撃、秀明の退水を誘い、1'09"由良5番石田が得点する。ゴール前を下がって守りカウンターをねらう秀明、シュートチャンスが多いが、相手GKに取られている。由良は攻めきれないことが多いが、数少ないチャンスを何とかものにしようとしている。そんな状況の中、3対2秀明1点リードでピリオドを終了する。

2P、1回ずつ攻めた後、6'18"秀明4番浜田のミドルシュートで得点、由良も秀明の退水を取って、5'06"5番石田が得点。4'42"には秀明11番山口が得点するも、由良を突き放しきれない秀明。必死に追いつがる由良は、2'44"5番石田がゴール前でシュート。由良は堅い守りからの速攻で徐々に試合の流れを引き寄せていく。1'53"秀明12番乙女が退水した時に、1'43"由良3番島が得点、同点となる。1'29"由良4番西川が退水したが、秀明は退水を攻めきれない。逆に由良はカウンターで57"7番新玉が得点して逆点。完全に由良のペースで試合が展開していく。

何とかして流れを取り戻したい秀明、風上に移ってどう変わるのか？

3P、由良のうまい守りに対して秀明は攻めきれない状態。お互い最後決め手を欠いた状態で攻防を繰り返していたが、5'25"由良3番島が退水。5'12"秀明6番染谷が得点を決めて同点に追いつく。これで流れは秀明に行くかと思えたが、両校シュートを決めきれずに一進一退の攻防。2'39"由良5番石田が退水。2'22"秀明12番乙女がシュートを決めて、秀明1点リード。由良は、ゴール前のポジションがとれず、ミドルシュートが多くなり、チャンスメイクができない。

4P、試合の流れは秀明ペース、由良はゴール前2Mのポジションがとれず、攻めきれない。4'12"由良6番安田のミドルシュートがバウンドして上のバーにあたり、そのリバウンドを7番新玉が決めて同点。激しい攻防の中、1'55"秀明11番山口が縦のドライブからシュートを決めて、秀明1点リード。35"秀明5番若松のシュートをGK河上が止めたが、そのリバウンドを6番染谷が押し込んで2点差。由良はタイムアウトを取って最後の攻撃に賭けるが、得点を挙げることはできなかった。

由良は試合後半、2Mのポジションがとれなくなっていた。秀明のマークが下がっていることもあると思うが、5番石田、6番安田と2枚のフローターを持っていただけに、もう一工夫欲しかった。GK河上、3番島などセンスあふれるプレーヤーがいるので、3位決定戦に期待したい。秀明は自分のゲームスタイルを最後まで崩さずにプレーしていた。3年ぶりの優勝まであと一つ。洗練されたプレーにより磨きをかけて、決勝を戦って欲しい。

記録者

光田康志

平成16年度 全国高等学校総合体育大会
(第72回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成 16 年 8 月 19 日

会場: 島根県: 江津市民プール

ゲーム

18

帽子の色	白	$\left. \begin{array}{r} 0 - 3 \\ 1 - 3 \\ 3 - 3 \\ 0 - 2 \\ \text{EX.} \\ - \\ - \\ \text{P.T.} \\ - \end{array} \right\}$	青	帽子の色
	富山北部高校		鳥羽高校	
	4		11	
天候:	曇り		審判1: 大川 和二郎	
			審判2: 当麻 成人	

戦評

地元江津を苦戦の末敗り、2回目のベスト4入りを果たした富北。初のインターハイ決勝進出を狙う。一方の鳥羽は長崎西に快勝し、ベスト4進出。この試合に勝って決勝に進み、4回目の優勝に夢をつなげたいところ。果たして決勝へ進み秀明英光と優勝を争うのは富山北部か？鳥羽か？

富北は鳥羽のカウンター・アーリーオフェンスからの失点を最小限に食い止め、攻撃陣の武田、横井のセンタープレーで勝負を賭けたいところ。しかし、開始直後の6'17"、6-5のカウンターで鳥羽5番笹井の鮮やかなミドルシュートがゴールに突き刺さる。富北は鳥羽のスピードに翻弄されながらも、横井、保田の果敢なドライブからDFを背負いシュートを試みるが、決定力が足りない。「ここは俺の出番」と、富山1年GK日水も再三、鳥羽カウンターを好セーブ、チームを盛り立てる。流れを呼び込みたいが、鳥羽の3年笹井、格谷のカウンターが炸裂、2点を加点。0-3で鳥羽リード。

2P、鳥羽のプレスDFにボールが思うように回せず、富山、武田のポジション取りも荒くなり、オフェンスが多発。しかし、鳥羽もスタミナが無くなったのか？作戦か？アーリーオフェンスからの途切れのないドライブ攻撃に、精彩が見られない。富北はカウンターを防ぎ、セットDFに持ち込めば、失点も抑えられ勝機も見えてくるのだが……。そこは試合巧者の鳥羽、相手に隙を与えず、格谷のカウンターで2点、芝山のセンターからの初得点と富北を追い込む。気がつけば鳥羽が6点リード。しかし、富北、武田がゴール前、1対1からDFをかわし望みをつなげるゴールを放ち2P終了。

3P、6'33"退水から、鳥羽、笹井がワンツーリターンでクイックシュート。「富北もここまでか？」と希望が薄くなった直後、6'01"、5'12"、4'26"に武田がセンターから気迫の3点連取。3点差まで追いつく。一気にムードを盛り返したいところ。しかし、その願いは届かず、その後、鳥羽2点加点で3Pも終了。4-9鳥羽リードで最終ピリオドへ。

4P、開始早々、鳥羽から退水を誘発、すかさず富北がTO、何としてもシュートを決め追撃したいという意気込みが伝わる、しかし鍛え上げられた鳥羽の退水DFの前には歯が立たなかった。逆に、鳥羽はその後、誘発した2個の退水パワープレーを、確実に2得点につなげ決勝進出を決めた。

泳力・テクニックに勝る、鳥羽が決勝進出。明日の秀明英光との決勝戦で最高のパフォーマンスを発揮し、観衆を魅了させて欲しい。残念だが3位決定戦にまわった富北、気を取り直し明日の由良育英戦にベストを尽くし、初の3位入賞を目指せ！少数精鋭の若いチームである、一戦一戦を大切に真剣に取り組み、その中から大切なことを自分自身で学んでいって欲しい。

記録者

木倉 敏彦

平成16年度 全国高等学校総合体育大会
(第72回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成 16 年 8 月 20 日
会場: 島根県:江津市民プール

ゲーム

19

帽子の色	白	$\left. \begin{array}{r} 3 - 0 \\ 1 - 1 \\ 2 - 2 \\ 2 - 1 \\ \text{EX.} \\ - \\ - \\ \text{P.T.} \\ - \end{array} \right\}$	青	帽子の色
	由良育英高校			富山北部高校
	8			4
天候:	曇り			審判1: 楨橋邦広 審判2: 若林和人

戦評

平成16年度島根インターハイもいよいよ最終日。由良育英高校は準決勝で秀明英光高校に敗れたものの、接戦を制して試合巧者ぶりを十分に発揮している。富山北部高校はスロバタンコーチの指導のもと初の3位入賞を目指す。よく似たチームカラーの両チーム。3位の椅子を争っての激戦が期待される。

1P、最初にチャンスを得たのは由良、5番石田がシュートを打つも、GK日水に阻まれ得点できない。富山は由良のハードなディフェンスにあって攻め込むことができない。由良の執拗な攻撃に富山3番武田がゴール前で退水。由良の攻撃をGK日水がセーブするもリバウンドを取られて5'32"由良6番安田が得点。由良が先制する。由良は攻撃の手をゆるめず、シュートのリバウンドの取り合いの中からペナルティーファールを取る。これを7番新玉がきっちり決めて2点目。富山も反撃に転じ、4'26"由良6番安田の退水を取るがシュートをミスして得点できない。由良の攻撃を富山のGK日水が必死に止めて何とか持ちこたえていたが、11"由良3番島に3点目を取られピリオド終了。由良の堅いディフェンスからのカウンターがうまく決まっている様子。

2Pになっても由良のペース。6'10"に富山2番保田が退水。退水の攻撃を由良は得点できずチャンスは潰れたかに見えたが、5'30"由良7番新玉がミドルシュートを決めて4点目。富山もここから反撃に転じ、富山らしいドライブを使った攻撃で由良6番安田の退水を取り、4'36"富山7番大井が得点、1点を返す。富山はGK日水を中心にディフェンスのリズムを少しずつ取り戻していき、激しい攻防が展開される。

次の1点が勝敗を分けると見られる3P、5'58"富山5番横井がカウンターでシュート。2点差に詰め寄る。富山は試合の流れを引き寄せたいが、5'30"5番横井が退水、これを由良4番西川がしっかりと決めて5対2。由良はディフェンスを固めて富山の攻撃を防ぎカウンターを仕掛けるが、富山のGK日水のファインセーブに阻まれ、なかなか点差を広げられない。富山も由良の厳しいディフェンスをはずしてシュートを繰り返すが、ゴールネットを揺らすことができない。その後両校1点ずつ取り合って、6対3でピリオド終了。

実力伯仲の両者、3位を賭けて、3点差で4Pへ。由良は厳しいディフェンスからの攻撃で5'03"2番森田が得点。富山も8番柴山、3番武田がシュートを打つが、得点できない。逆に由良は3'29"2番森田がカウンターを決めて8対3。富山もあきらめずにシュートをねらうがどうしても入らない。残り7"富山5番横井のシュートが決まり8対4。富山の反撃を由良が守りきり、由良の3位が決定した。

富山は序盤の3失点が悔やまれる。センスあふれる若いチーム、国体での再挑戦を期待したい。由良は昨年より一つ順位を上げて3位。粘りのディフェンスからの攻撃は見事であった。闘志あふれるプレーは観衆の心を引きつけていた。由良育英という校名も今年が最後、水球関係者の胸にしっかりと刻まれたと思う。

記録者

光田康志

平成16年度 全国高等学校総合体育大会
(第72回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成 16 年 8 月 20 日
会場：島根県：江津市民プール

ゲーム

20

帽子の色	白	$\left\{ \begin{array}{l} 1 - 1 \\ 3 - 1 \\ 1 - 1 \\ 0 - 2 \\ \text{EX.} \\ 0 - 2 \\ 0 - 1 \\ \text{P.T.} \\ - \end{array} \right.$	青	帽子の色
	秀明英光高校		鳥羽高校	
	5		8	
天候：	晴れ		審判1：大川 和二郎	
			審判2：牧田 和彦	

戦評

秀明英光は1回戦：埼玉栄に6 - 2、2回戦：前橋商業に10 - 5、準々決勝：那覇商業に16 - 6、準決勝：由良育英に9 - 7と競り勝ち、決勝に駒を進めた。9回目のインターハイ出場でこの試合で勝利すれば、2回目の優勝となる。今年で創部20年目、華を添えたいところ。

鳥羽は1回戦：金沢市立工業に15 - 1、2回戦：山形工業に10 - 1、準々決勝：長崎西に13 - 1、準決勝：富山北部に11 - 4と快勝で決勝に駒を進めた。昨年は2回戦で秀明英光と対戦、8 - 10で敗退。昨年の借りを返し、4回目の優勝を飾りたいところ。

心配された台風(通告では江津名物と紹介され爆笑)も江津インターハイ関係者の熱い思いで吹き飛ばされ、会場のコンディションも良好。

いよいよ中国04総体、ファイナルステージ、今伝説になり輝くのは秀明英光かそれとも鳥羽か？

両チームともジュニア育ちの経験豊富な選手が多く、駆け引き・勝負所は心得ている。激しくも慎重な攻防で1Pが始まる。秀明英光は基本的にマンツーマンDF、センターケアで時には下がりも混ぜ巧みに動き攻撃につなげる。鳥羽はお家芸の"鳥羽DF"からカウンター、アーリーオフenseの早い展開をセンター芝山中心に組み立てる。両チームのOF展開には目を見張るものがある。カウンタースピード、パスリズムとコントロールどれも質が高い。先制したのは、鳥羽、4番芝山のミドルだった。しかし、秀明も2'01"パワープレーから12番乙女が左サイドから沈め、すかさず同点。

2P、秀明は4'56"若松からの絶妙なパスを染谷がジャストミート。ここでハプニングが発生。秀明4番浜田がコンタクトプレーで負傷退水。交代で7番キャプテン皆川の投入となる。ピンチの退水を死守した後、退水を誘発。ベンチはTO。確実に1'50"秀明山口がゴール。さらに交代して入った秀明皆川の必死な攻め上がりからのパスで、若松がミドルで加点。鳥羽はこのピリオド、退水を2回誘発するものの、無念のシュートミス。終了3"前に、意地で筈井がシュートを決めこのピリオド3 - 1で終了。

3Pも両校一歩も譲らず、お互い激しい攻め上がりからのアーリーオフenseの攻防が続く。両チームGK、森脇、山根は気の抜けないシーンの連続である。このピリオドは、鳥羽、雲井が泳ぎでメイクしたカウンターから格谷が1点。秀明は若松がセンターで打ち切り1点。見事なシーソーゲームは1 - 1で終了。合計5 - 3、秀明リードで4Pへ。

4P、スタンドの声援も最高潮！選手のスピードは落ちず、反対に緊張感も高まり速くなっているように感じる。京都DFに秀明選手が中盤で焦りだし、ミスが出始める。焦りから退水が発生、しかし試合巧者鳥羽の選手達でも緊張からか2回の退水も痛恨のシュートミス。退水の攻防がやはり勝敗を決めるのか？しかし…この苦しい局面で、鳥羽を救ったのは静かなるファイター格谷の2点であった。残り13"秀明サイド、TOで勝負に出るが集中していた鳥羽DF陣の前にゴールは奪えず。今大会3回目の延長戦へ。

延長、両チームとも戦い方は心得ている。両チーム、ピンチ、チャンスの連続をギリギリで踏ん張って頑張れ！前半、様子を伺いながら攻防が続く。秀明が2 - 1カウンターを何とか追いつきDFがほっとしたところを絶好調ボーイ鳥羽、格谷が得点。また、残り4"で筈井が加点。秀明、危うし！

後半、秀明の懸命なOFで反撃を試みるが、鳥羽選手が言った「最大集中やで！」のDFの前に点を奪うことは出来なかった。1"鳥羽、雲井がペナルティーで点をとり激戦・死闘が終了した。

両チーム選手諸君、感動をありがとう。そして、優勝した鳥羽高校おめでとう！この言葉しかない。

試合終了後のエール交換でお互いの健闘をたたえ合う姿に、会場の全員が感動を覚え暖かい拍手を送っていた。高校生らしい爽やかさを感じながら、「君の輝く一瞬が、今伝説となる」中国04総体は幕を閉じた。

記録者

木倉 敏彦